

8. 中国（地域別調査機関：（社）中国地方総合研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	百貨店（売場担当）	販売量の動き	・お中元の購買量が例年より増加している。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数も増加傾向にあり、買上点数・単価共に3か月前と比べて良くなっている。お中元も全般的に思ったより動きが良い。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・今月は気温のせい順調に推移した。とは言えそれほど高い気温ではなかったため、売上は前年比105%程度で推移した。また、水羊かんといったような季節商材の動きがあまり良くなかった。
		コンビニ（エリア担当）	それ以外	・週末には、店舗の前の道路において行楽地への渋滞が目立つようになった。
		都市型ホテル（従業員）	来客数の動き	・レストラン来客数合計は、過去4か月間、前年を上回って推移している。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・ビジネス客やファミリー客の宿泊の予約が増え、前年を大きく上回っている。
	変わらない	商店街（代表者）	販売量の動き	・販売量が少し下がってきている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・今月はバーゲン月であったが、売上等について3か月前と比べて大きな変化はなかった。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・長雨や冷夏、それに次ぐ猛暑と天候が不安定だったため、客は何を買ったら良いのかなか決められないようであった。
		一般小売店〔紙類〕（経営者）	お客様の様子	・商店街への来客数の動向が、購買する客と長くちゅうちょする客と二極化し、今までと違う雰囲気になっている。
		一般小売店〔印章〕（営業担当）	来客数の動き	・7月中旬は雨が多く、台風の影響で早く閉店するなど、客足が悪く、売上も大幅に減少したが、下旬は来客数も多くほっとした。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・クリアランスに入り、固定客の多い高額品ゾーンは客でにぎわい、クリアランスが切れたり台風が来ても前年並みを確保できたが、フリー客の多いゾーンでは苦戦している。
		百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・昨年以上に来夏が遅い状況となり、夏のセールも一向に盛り上がらなかった。また中元についても、早期受注では数字伸ばしたが、7月に入り失速状況となった。特に外商関係の法人の受注が大きく落ち込んだ。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・アパレルについては、全体的には昨年の売上を下回る状況であるが、個別には単価が高いにも係わらず売上を伸ばしているテナントがある。飲食については昨年の売上に並ぶようなテナントが増え、やや持ち直してきている。
百貨店（売場担当）		来客数の動き	・夏物バーゲンが主たる売上の要素であるが、アパレル関係を中心に売上はかなり厳しい。いつもならスタートが悪くても再値下げ辺りから盛り返してくるが、今年はそれが全く無いまま、月末を迎えてしまった。	
百貨店（売場担当）	お客様の様子	・最近はずっと前年比をクリアしていたが、今月は前年比96%と前年割れであった。また、秋物商材が入荷したが、秋物商品の動きが良いかわりに、夏のバーゲン商品がほとんど動かなかった。		
百貨店（購買担当）	お客様の様子	・年々クリアランスのスタートが早まり、今年も6月30日からスタートということで、売上も前半シフトになった。恒例だと、中旬まではセールでしのげるのだが、今年はセールになっても客の買い控えは続き、どんなに単価が安くなっていてもその中から吟味して1枚を選ぶという買い方は依然として変わらなかった。ただし、気温が高くなってきたということで、Tシャツ関係の単価が安い物は良く動いている。また寝具関連が好調で、タオルケット・肌布団・ござといった清涼感のあるものが良く動いている。		

スーパー（店長）	販売量の動き	・3か月前も現在も、販売点数が前年比102～103%とほぼ変わらない状態が続いている。来客数についても前年比102%と、ここ数か月変わっていない。
スーパー（店長）	単価の動き	・買上点数は増加するが、高付加価値商品の動きが鈍く、客単価が前年を下回っている。
スーパー（販売担当）	販売量の動き	・雨の日が大変多かったため、歩いて来店する客が大きな荷物になる事を避けるために、あまり物を買わなかった。
コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・土用の丑の日の鰻重の予約で、中国産の低価格な商品が敬遠されたが、日本産の高価格なものに切り替える客は少なく、昨年を大幅に下回った。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数の動きには若干の上ぶれはあるものの、ほぼ現状維持の状態である。
衣料品専門店（販売促進担当）	来客数の動き	・気温も上がってきたため、メンズ・レディース共に夏物の購買客は多いが、全体的な来客数は週末も含めて落ち込んでいる。
家電量販店（店員）	販売量の動き	・ボーナス時期にもかかわらず、売上の伸びは一つである。
乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・自動車関連市場は前年超えができない状況がずっと続き、最近では商談が長引いている。また新車台替促進も非常に難しくなっている。燃料高騰が大きく影響していると思われる。
乗用車販売店（統括）	お客様の様子	・夏休みになったが、選挙のために来客数が減っている。話をしても、年金問題やそのほか様々な問題点ばかりが話題になり明るい話題が少ない。また雰囲気的に、景気の悪い感じが漂っている。
乗用車販売店（サービス担当）	販売量の動き	・新車の販売台数が3か月前に比べて良くなっていない。普通車でなく軽自動車売れている。
自動車備品販売店（経営者）	来客数の動き	・中旬以降は回復傾向にあるが、来客数は引き続き前年を下回る状態である。回復はしているが、その度合いは低調である。
その他専門店〔時計〕（経営者）	来客数の動き	・衝動買い的な購買が少ない。
一般レストラン（店長）	来客数の動き	・夏休みや連休もあったが、ファミリー層を中心に来客数が少ない。
一般レストラン（店長）	来客数の動き	・今月初旬はボーナスの影響から来客数はまずまずの伸びをみせていたが、中旬以降からは少し客足が途絶えている。
その他飲食〔ハンバーガー〕（経営者）	単価の動き	・来客数は前年に比べ2けたの増加が続いているが、客単価は今年初めてマイナスとなった。
観光型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・単価は落ちているが、販売量でカバーできているので、3か月前に比べると売上はさほど変わらない。
都市型ホテル（総務担当）	販売量の動き	・婚礼は、前年比で増加傾向で推移しているものの、他の部門は依然として前年比でマイナス基調にあり、大きな変化はみられない。
旅行代理店（経営者）	単価の動き	・客の動きはあるものの、客単価が非常に低下し、利益率も下がってきている。
タクシー運転手	販売量の動き	・ボーナスシーズンであるにもかかわらず、ボーナスが出たとか、良かったとかいう話が1つも聞こえてこない。
タクシー運転手	来客数の動き	・7月は前半は売上も少し伸びていたが、後半は選挙も始まったため、夜間の飲食店の客の出入りが悪かった。
タクシー運転手	お客様の様子	・梅雨の時期であったため、客の利用頻度も高かったが、距離としては近い距離が多かった。夜の繁華街については依然伸びが悪く、ほとんどの日において12時前後で人が閑散となる状況である。
通信会社（総務担当）	お客様の様子	・ボーナス時期の需要増もあり、新規契約はまずまずだが、大手事業者への乗換えによる解約が相変わらず多い。
通信会社（総務担当）	販売量の動き	・個人消費の面からいうと定率減税廃止、住民税アップ、年金不安、格差是正等意識面での景気好況が実感できていないのが現実。弊社の販売面における客の意見としても現実出てきており、需要の冷え込みが感じられる。

	テーマパーク (財務担当)	来客数の動き	・入園者数では、前年同月と比較して上回っているが、目標には及ばず、また、3、4月と比較してもほぼ同様な状態となっており、あまり変動が見られない。
	テーマパーク (広報担当)	来客数の動き	・長雨で来客数が落ちていたが、梅雨明け後は順調に回復した。
	テーマパーク (業務担当)	来客数の動き	・この時期は天候等の要因から例年苦しい時期であるが、ほぼ例年並みの来客数は確保できた。
	ゴルフ場(営業担当)	来客数の動き	・今年に入ってから変わらないものの、全般的に去年に比べては良い。
	美容室(経営者)	お客様の様子	・客の話題は、景気が良くないという声ばかりである。
	美容室(経営者)	来客数の動き	・今年は例年になく週末に大雨が降り、それにより客足が遠のいた。
やや悪くなっている	商店街(代表者)	来客数の動き	・中国の食品問題から、中国製原料を使用する医薬品やお茶関係の店舗で、売上が極端に落ちている。
	商店街(代表者)	単価の動き	・デフレ傾向が止まらない。バーゲンセールも初日はにぎわうが、過去と比べてインパクトが少ない。6月はバーゲンの前倒しで売上が増加したが、その反動が7月にすぐあらわれ、苦戦した。少子化・オーバーストア・デフレという三重苦にあえぎ、苦しんでいる。
	一般小売店 [茶](経営)	販売量の動き	・依然、厳しい状態で、売れない。今月も売上は前年を割っている。
	百貨店(営業担当)	販売量の動き	・売上が伸びない。住民税のアップが消費意欲を大きく刺激し、販売量の低下につながっている。
	百貨店(売場担当)	販売量の動き	・梅雨明けするまでは夏物が大不振だった。27日ようやくサンダルが前年を上回った状況で、6月30日に前倒ししたバーゲンを入れても前年比98%の売上となった。
	百貨店(販売担当)	単価の動き	・セールであってもまとめ買いが少なく、昨年より客単価が若干低下している。購入の仕方がかなりシビアである。
	スーパー(店長)	単価の動き	・客単価の平均が前年比97.4%となっている。特にガソリンの値上げ等により財布のひもが固くなっている。
	スーパー(店長)	来客数の動き	・近隣の商業施設が改装のため閉店しており、商圈としての来客数が減少している。そういったなかで、当店の来客数は、前年比92%で推移しており、厳しい状況が続いている。
	スーパー(店長)	来客数の動き	・平日の来客数は昨年と同程度ではあるが、週末については昨年を大きく下回っている。
	スーパー(総務担当)	単価の動き	・来客数は前年比1%程度増えているものの、客単価が一向に上がらない。特売合戦による客の取り合いで、一品単価も下がって、売上数量が増えない。
	スーパー(財務担当)	来客数の動き	・競合店の出店の影響もあり、既存店の来客数が前年を下回っている。
	コンビニ(エリア担当)	来客数の動き	・来客数は前年比で1.7%低下しており、客離れに歯止めが掛からない。財布のひもは固く、出費の配分をしっかりと行っているようである。
	衣料品専門店 (経営者)	来客数の動き	・例年に比べ、夏物のセールの来客数が少ない。
	衣料品専門店 (経営者)	販売量の動き	・前年比で来客数、販売量共に減少している。また、近所を見ても空きテナントが増えている。
	衣料品専門店 (地域ブロック長)	販売量の動き	・なかなか気温が上がらなかつたことに加えて、台風4号の影響もあって盛夏物が売れなかつた。
	家電量販店(店長)	販売量の動き	・例年に比べて気温が上がらず、エアコン・冷蔵庫などの季節商材の数字が増加してこない。
家電量販店(店長)	販売量の動き	・ボーナス景気もなく、客も少ない。売上も、デジタル家電が不振で白物も良くなく、特にエアコンが今年の5割の販売である。	
家電量販店(予算担当)	販売量の動き	・先月までは、全商品的に販売数・販売金額共に上昇のトレンドに乗っていたが、7月に入り天候が不順だった事もありエアコンがやや不調となった。梅雨明けが例年よりやや遅かった事が、全体的に色々と影響しているとみている。その他の商品についても、特段の悪い傾向はみられないが、全体に軟調で推移している。	

		乗用車販売店（統括）	販売量の動き	・販売量は前年比85%と大変厳しい状況となっている。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・「ボーナス商戦」であるこの時期に、来客数が伸びていない。
		その他専門店〔布地〕（経営者）	来客数の動き	・雨の日が多かったために、また、参院選の影響も出て来客数が伸びなかった。
		その他専門店〔カメラ〕（店長）	来客数の動き	・来客数の動きが前年比90%台の前半で推移している。
		その他専門店〔スポーツ〕（経営企画）	販売量の動き	・一部商品の値上げが影響し、買上点数が減少している。
		その他小売（営業担当）	来客数の動き	・選挙の影響で観光客の出足が止まって、土産物店の売上が悪い。
		観光型ホテル（経理総務担当）	販売量の動き	・6月までは順調であった売上が、7月に入って急ブレーキがかかったように伸び悩んでいる。選挙の影響、台風や天候の影響等、要因が挙げられるが、増税感や物価高による心理的な影響も関係している。
		タクシー運転手	販売量の動き	・売上総額が減少しているだけでなく、乗客数も単価も低下したままである。
		通信会社（企画担当）	お客様の様子	・当月は賞与支給の時節だが、期待ほど商品・サービスの更新は無かった。
		設計事務所（経営者）	競争相手の様子	・受注減少により過度な競争をしているため、廃業など発生し及び価格競争の激化。
		設計事務所（経営者）	お客様の様子	・建築建材や建築設備機器の価格が、石油の影響からかジワジワと上昇している。選挙もあり、客は現在様子見のようだ。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・受注件数も徐々に減少傾向となって、1件当たりの受注金額も減少傾向となっている。
	悪くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・5月以来、客が商品を購入せず、全体的に状況が非常に悪くなっている。選挙が7月29日になったのも非常にこたえている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・客の動きが悪く、アーケードがある商店街に入通りが全くない。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・客との会話では、購買意欲等、全てにわたって以前とは違ってすごく慎重になっている事が見て取れる。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・今月は選挙の関係で客の動きがない。最近では選挙運動の流れで1杯飲むということもなく、飲酒運転の規制が厳しく、全く悪い状態である。
		都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・宿泊、レストラン共に利用者数が減ってきている。
企業動向関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	受注量や販売量の動き	・新規案件の受注があり生産量がやや回復している。
		電気機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・エアコン関連は欧米からの追加受注等高止まりの受注となっている。自動車関連は、生産は引き続き好調で減速の気配は見当たらない。
		輸送用機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・新製品の受注は予定どおり推移し好調である。
		輸送業（統括）	それ以外	・業務拡大を図るため人員を募集するがここ1年はほとんど集まらない。他の業種に人材が流れている。
		金融業（業界情報担当）	取引先の様子	・主要取引先の輸出好調を背景に、受注は高水準を維持している。新規受注も獲得し、増収・増益基調を維持している。
	変わらない	化学工業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・生産量、出荷量共に先月と大きな変化はなく安定しており、全般に高稼働率を維持している。物流費・原燃料費高騰の影響を受けながらも好景気の影響で、利益が出ている。
		鉄鋼業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量は堅調であるが、エネルギー関連費用や原材料等収益圧迫要因が強く、業績は厳しい。
		金属製品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・ここ1年間、受注量は多く、工場はフル稼働で生産している。

	一般機械器具製造業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	・市場環境が回復傾向にあるものの、国内向けの自社製品の売上は、引き続き厳しい状況下にある。	
	輸送用機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・春先からクライアントからの受注も安定し、好景気が続いている。	
	建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・工場関係などで仕事の量はそこそこあるのだが、価格的に大変厳しく、末端の当社までは潤わない状況が続いている。	
	通信業（営業企画担当）	受注量や販売量の動き	・法人向け通信サービスの販売は伸びが鈍く、一部業種を除いて商談があまり進展しない。従来型の高品質・高価格商品更改ペースが落ちていることから、総合収支的には目標値を維持しているものの、新規サービスについては販売が増加傾向にはなっていない。	
	通信業（部門長）	取引先の様子	・施策として投資はしなければならない事は分かっているが、業績が不振で検討が進まないというユーザーが多い。将来的に導入効果のある施策よりも、現在のコスト削減施策が優先している傾向が強い。	
	会計事務所（職員）	取引先の様子	・製造業やサービス業はコンスタントに売上を確保している。特に製造業は、4月以降堅調さを維持しているところが多い。反面、建設業関係の不振が目立つ。特に公共事業を主体にしている会社は、売上高を前年より2割以上落としているところもあり厳しい。	
やや悪くなっている	食料品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・社会の食品製造に対する見方が厳しいものがある。委託先の各社についても、売上等の数値の減少が見受けられる。	
	その他製造業〔スポーツ用品〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・現在は一応順調に推移しているが、先の見通しが立たないので好調感はない。逆に春先の販売状況は新商品の投入もあり、活発な動きをみせたが、ここにきて落ち着いてきており、逆に在庫増の傾向も出てきた。	
	金融業（営業担当）	取引先の様子	・これといって良い業種がない。特に建設土木においては、夏枯れ、仕事がない状況が続いている。3月の決算企業においても、収益は軒並みダウンしている。また、夏季の賞与資金についての話は全く出ていない。	
悪くなっている				
雇用関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・今まで派遣を利用していた企業は大手企業が中心だったが、ここ数か月は中小企業からも人材の引き合いが出てきた。それによって、求職者へ紹介できる仕事が多くなってきている。
		求人情報誌製作会社（担当者）	採用者数の動き	・来春卒業の新卒向けの合同企業説明会への申込が増えてきている。
	変わらない	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・広告費などの出稿状況を見ても、あまり変化がない。各企業共経費節減については厳しくなっているようだ。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人は前年比で横ばいとなったが、ここにきて原油価格の高騰の影響がでてきている。運送業を中心にETCの利用方法の見直しなどコスト削減に拍車がかかっており、新規雇用には消極的になっている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年同月及び3か月前に比べ増加した。内容を見るとパート求人が増加傾向にあり、専門技術職で増加し事務職や生産工程の職業で減少している。正社員の求人は、やや落ち着いた感がある。
		職業安定所（職員）	採用者数の動き	・求人数はやや上向き加減にあるが、採用数が前年を下回っており、求職者数が減少とならないため、求人倍率は下降している。
		職業安定所（雇用開発担当）	求人数の動き	・前月に比べ、新規求人数の伸びが鈍化してきている。前年比で5月は2けたの伸びをみたものが、6月の伸び率においては2けたに届かず、労働市場は小康状態にあると言える。
		民間職業紹介機関（職員）	求職者数の動き	・個人事情による自発的退職者の割合が多く、収入増という理由よりも、やりがいや自己実現のために転職を考える人が増えてきている。
		学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・求人依頼の企業が、この時期でも多くある。

やや悪くなっている	人材派遣会社 (支店長)	求人数の動き	・登録者数が減少し、また客から人材に関する依頼も減少している。
	民間職業紹介機 関(職員)	雇用形態の様子	・利益を出している地場中堅企業において、正社員で補充すべきところを、「とりあえずは非正社員で雇用して様子を見る」とのスタンスで対応するケースが散見される。
悪くなっている	-	-	-